

地域情報メディア論

最終課題

制作者：スカイ

探求テーマ：長野県内でのオープンデータの活用方法を探る

このテーマを理由：私は現在長野県内で公的機関や企業がどのようにオープンデータを活用しているか分かりません。そのためこういったものがあるのか調べたいと思いました。なので地元のオープンデータの活用例が分からないことを私の地域メディアの課題とします。具体的には活用具体例を3つ・自分が考える良さそうな活用方法を1つ述べたいと思います。

①長野県食品衛生協会

- ここでのホームページでは長野県の食品に関するオープンデータを元に行政機関と連携していると説明されています。主に食品衛生許可の出たお店のオープンデータが掲載されています。オープンデータ上には住所も書かれているため行きたいお店があったらとても行きやすくなっています。ただ個人的にはオープンデータの内容を確認する方法がただ元々のオープンデータのある所へのリンクのみだったのが残念でした。このホームページ上で完結するページを作ればオープンデータの活用に関しては非常に良いと思います。

②松本市の3D都市モデル

- これは最近流行りのメタバースに近い取り組みの一つになっています。主導は国土交通省で全国規模で行われており、長野県では松本市が選ばれました。この作られたオープンデータは公開されており非常に松本市が視覚的に見やすいオープンデータになっています。この主な活用方法は未来の都市計画をどう進めるのか、実際に作って見たらどうなるのかと、このオープンデータ上で実験をしてみるシミュレーションに使うと松本市は説明しています。

③ ジオナレッジ合同会社

- この会社は長野県内のオープンデータを使用した取り組みをしており政府CIOポータルの“オープンデータ100”にも選ばれています。活用例として地図情報にまとめたり、アプリを作ったりなどして行政の作ったオープンデータを分かりやすく利用者に提供する活動をしているそうです。確かにダウンロードが必要だったり、数が膨大過ぎるオープンデータは一般市民には使いにくいと判断されやすいと授業でも勉強したため、見やすい形に変換してそれを提供することは必要で需要がある活用例に思えました。

自分が考える活用例

- ここでは調べて私が思ったオープンデータの活用例を述べたいと思います。私が考えたことは降水量の平均地区分布図です。なぜそう思ったのかというとオープンデータの中には詳しく調べられたそれぞれの地域の降水量が記載されたものがありました。なのでこれを使ったアプリなどを作り、公開されれば雨が降りやすい地域なのか逆に降りにくい地域なのか洪水が起きる可能性があるのか等が瞬時に分かり、引っ越しする際の参考情報になったり、ダム制作の参考資料になったり、災害対策の資料になりうると思いました。

まとめ

- ▶ 今回この最終課題を書き終わり思ったことですがやはり活用例は極端に少ないと思いました。特に自治体側が自分たちで公開したオープンデータを自分たちで使うケースが多く、企業側などの第三者が使用自由にも関わらずオープンデータの活用をしていない実態が見えてきました。しかし使っている企業も今回まとめたように存在はしており、その活用例は私が考えていたものとは大きく違う斬新な活用例が多かった印象を得ました。なので今回の課題探求を通して新たにオープンデータの活用の可能性を見られた点が私がこの最終課題で学んだことです。



参考文献

- ・ [リンク | 一般社団法人 長野県食品衛生協会](https://npfha.com/link/)
→<https://npfha.com/link/>
- ・ [松本市の3D都市モデルを公開しています](https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/81/5301.html)
→<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/81/5301.html>
- ・ [政府CIOポータルの“オープンデータ100”に紹介されました。](https://geoknow.jp/info/20210201/)
→<https://geoknow.jp/info/20210201/>